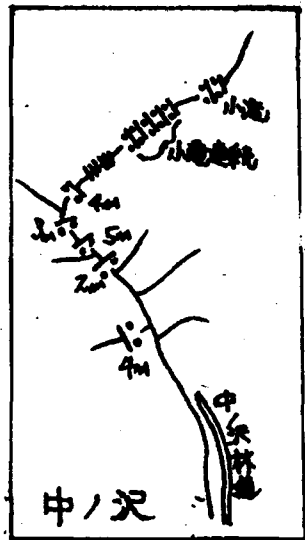
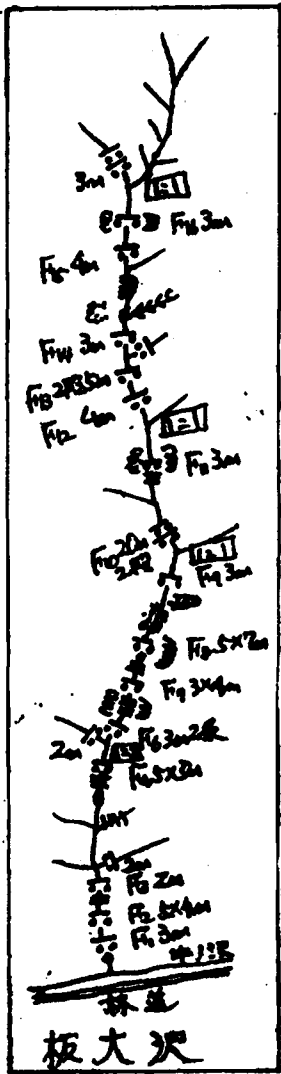


中ノ沢 1984年7月21日
L:

12:00昼食ののち、下降開始。鞍馬の跡跡から10分程で中ノ沢源頭に出る。大きなシダが生い茂り、ひよいと小人などが出てきそうな幻想的雰囲気。

15分程下降すると、小滝が続き快調。しかし、水がとても冷たく感じられる。溺水地点がいくつかあったが、そのせいだろうか。

その先、2m 2段滝を越えると、5~6mの滝が連続し、その後も小滝をまじえたナメが続いて楽しい。



12:40最初の支沢が右岸から合流。本流には2~5mの滝が続き、5本数えた支沢の位置をそのつど地図で確かめながら下降を続ける。

13:30左手に見えてきた林道に上がる。このあたり林道は荒廃しているが、昔はトロッコが入っていたそう。この先10分程進んだあたりからは道らしくなり、車も通れるようになった。

林道を歩いているうち、しよぼついていた雨が少しずつ強くなってきて、板大沢に入った穴戸・佐藤パーティがデポしておいてくれた車を発見したと思ったらザーとやってきた。急いで車に駆け込んで中ノ沢の下降を終了とする。

(記)

【タイム】 下降開始(12:00)→下降終了(13:30)

板大沢 1984年7月21日
L:

出合からしばらく小滝が連続するが、兩岸から支流が合流するあたりからはしばらく平凡な河原歩きとなる。このあと右岸から支流を合わせた先に、二条に落ちる滝をかかえたゴルジュがあり、ここを過ぎると、再び河原となる。このあた